

事業コード	H30-建-継-24			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	総合流域防災事業			部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修			班 名	河川・ダム・海岸班 (tel)018-860-2514
路線名等	二級河川 大沢川			担当課長名	河川砂防課長 小野 久喜
箇所名	にかほ市平沢			担当者名	副主幹(兼) 班長 加賀 良宏
プランとの 関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化	
	施策コード	01	施 策 名	災害に備えた強靱な国土づくり	
	指標コード	01	施策目標(指標)名	中小河川における減災対策の推進	

## 1. 事業の概要

事業期間	S60～ H38 (42年)	総事業費	40.8億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長 L=3,932m 計画高水流量 Q=160m <sup>3</sup> /s(1/10)					
事業の立案 に至る背景	大沢川は鳥海山を上流域に抱える二級河川である。上流部は急流河川であり、集落や圃場のある中・下流部は蛇行が著しく河川断面も小さいため、豪雨の度に家屋や田畑の浸水被害を繰り返してきている。このため浸水被害の未然防止や被害軽減を図る目的で昭和60年から小規模河川改修事業として採択され、現在は「総合流域防災事業」として事業を進めている。					
事業目的	改修を推進し、河川断面の確保や湾曲河道を是正することで洪水被害の抑制または軽減されることとなり、沿川地域の保全が図られる。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
事業費内訳	事業費	4,080,900	4,080,900	0		
	経費内訳	工事費	2,900,500	2,900,500	0	
		用補費	720,300	720,300	0	
		その他	460,100	460,100	0	
	財源内訳	国庫補助	2,040,450	2,040,450	0	
		県債	1,836,400	1,836,400	0	
		その他	0	0	0	
一般財源	204,050	204,050	0			
事業内容	掘削、護岸工、橋梁工、排水工、用地補償	掘削、護岸工、橋梁工、排水工、用地補償				
事業の進捗 状況	全体計画 平成29年度末投資額 進捗率	40.8億円 27.0億円 66.2%				
事業推進上の 課題	狭小部となっている国道橋及び鉄道橋の架替が必要であるが、近年浸水被害の頻発している他河川の事業を優先していることから、長い事業期間を要している。					
関連する計画等	第3期ふるさと秋田元気創造プランの中で「県土の保全と防災力強化」を基本政策に位置づけており、これを実現する施策の中で「中小河川における減災対策の推進」を位置づけている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	協議中の国道橋より上流の区間は河道拡幅及びその法線の是正が完了し、治水効果が発現されている。国道橋より下流域は鉄道橋を含めて未着手の区間が多く、改修の推進を図っていく必要があるが、県全体での予算制約に加え全県域での浸水被害発生による情勢の変化により、事業期間を延長する必要がある。					
事業効果把握の手法及び効果	指 標 名	河川整備率		低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	指 標 式	河川改修済み延長/要改修延長		データ等の出典	河川砂防課	
	指 標 の 種 類	○ 成果指標 ● 業績指標				
	目 標 値 a	45.9%		把握の時期	平成30年 3月	
	実 績 値 b	46.0%				
	達成率 b/a	100.2%				

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	国道7号より上流区間に関しては完成しているが、未改修の下流区間は家屋が密集する地域であるほか、JR羽越線も浸水の危険性があり、引き続き整備を進めていく必要性が高い。	28点
緊 急 性	国道橋及び鉄道橋が現況流下能力において支障が生じている。周辺は家屋が密集する地域であり、浸水被害が発生した場合の被害は甚大なものとなる。	5点
有 効 性	第3期ふるさと秋田元気創造プランの基本政策に位置づけている「県土の保全と防災力の強化」を実現するために有効な事業である。 また、改修済みの上流区間と一連で整備することで整備効果が発現する。	15点
効 率 性	(費用対効果) 事業の費用便益比は、24.62であり経済的な妥当性は高いと言える。 (コスト縮減への取り組み状況) 建設発生土の減量化及び現場内での流用に努めコスト縮減に取り組んでいる。	13点
熟 度	(地域の状況) 地元への改修に関する意向が強い。 (環境対策) 護岸整備を最小限とし、左岸山付け部や現況河道は極力保全し、生態系に配慮している。	21点
判 定	ランク ( ●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ )	82点
	地元からの要望が強く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、事業の重要性は高く評価できるため、整備を継続し早期完成を目指すべき。	
総合評価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止	
	事業継続は妥当である	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト縮減に努めながら、事業を継続する。
----------------------

4. 公共事業評価専門委員会意見

--

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H30-建-継-24)  
箇所名 (二級河川大沢川 (にかほ市平沢))

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況	浸水戸数	50戸以上	10	10	377戸	
			49～10戸	7			
			10戸未満	3			
	浸水面積		60ha以上	10	10	91ha	
			59～10ha	7			
			10ha未満	3			
	重要な公共施設		3施設以上	5	3	J R、国道7号、にかほ市仁賀保庁舎、平沢小学校	
			2～1施設	3			
			なし	0			
	整備計画の策定						
	関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	5		
			協議中であるが特段問題ない	3			
策定に着手していないが予定がある			1				
予定なし			0				
計				30	28		
緊急性	災害発生の危険度	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	5	計画流量160m <sup>3</sup> /sに対し現況流下能力96m <sup>3</sup> /s 60%	
			40～59%	7			
			60%以上	5			
	秋田県水防計画	重要水防地域	評定基準区分A	5	0		
			評定基準区分B	3			
計				15	5		
有効性	河川整備の有効性						
	安全度		災害防止等効果が発現する	7	7		
			災害防止効果は現状と変わらない	0			
	親水性		安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	緑化に配慮した護岸	
			親水性は現状と変わらない	0			
	地域開発の状況		都市計画区域の存する地域	3	3	都市計画区域	
地域開発の計画がある			1				
計				15	15		
効率性	事業の投資効果						
	費用便益比 (B/C)		1.0以上	5	5	24.62	
			1.0未満	0			
	事業実施コストの縮減	該当項目数	3項目以上	5	3	家屋移転の少ない河道計画建設副産物の発生抑制 再生資材(砕石)の使用	
			2項目	3			
			1項目	1			
			なし	0			
	当初計画との比較						
当初計画事業費からの縮減		減少または10%未満の増加	5	5			
		10%以上30%未満の増加	3				
		30%以上の増加	0				
計				15	13		
熟度	地元との合意形成の状況						
	地域住民の事業実施の意向		意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5		
			意向が強く要件の同意を概ね得ている	3			
			意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1			
	市町村の参画		積極的に参画し要望書等の提出がある	5	3		
			参画している	3			
			参画していない	0			
	事業の進捗状況						
	進捗率 (事業費)		8割以上完了	10	8	(H29)27.0/(計画)40.8 =66.2%	
			5割以上完了	8			
1割以上完了			5				
1割未満			2				
環境との調和への配慮状況							
環境保全への配慮		システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	5	工事影響範囲が最小になる計画 排出ガス対策型車両や機械の採用 法面等の緑化の実施		
		システムでの環境配慮事項が1～2事項	3				
		システムでの環境配慮事項がない	0				
計				25	21		
合計				100	82		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		